喜多村緑郎文庫のデジタルアーカイブ化 ——多面的利用の可能性

森井マスミ 日本大学 文理学部
吉岡 卓 日本大学 文理学部
谷 聖一 日本大学 文理学部
紅野謙介 日本大学 文理学部

喜多村緑郎とは，明治から昭和にかけて活躍した新派劇の役者である．日本大学文理学部では喜多村緑郎に関する演劇資料と日記のデータベース化を進めている．新派劇に関するデジタルアーカイブ化の問題点は，台本画像のデータベース化が進んでいないことである．喜多村緑郎文庫では，それを進めていくと同時に，台本，上演年表，新派脚本集，喜多村緑郎日記を有機的に結びつけ，衰退傾向にある新派劇に関する興味を活性化させると同時に研究の進展を促すために，幅広いユーザを想定しながら専門的な研究者のニーズにも応えることができるよう，多面的な利用が可能なホームページを作成した．

Archive Management of the Kitamura-Rokuro Library; the Possibilities of Multifaceted and Comprehensive Approaches

Masumi Morii
College of Humanities and Sciences
Nihon University

Suguru Yoshioka
College of Humanities and Sciences
Nihon University

Seiichi Tani
College of Humanities and Sciences
Nihon University

Kensuke Kohno
College of Humanities and Sciences
Nihon University

Kitamura Rokuro is one of most popular actors from the end of the Meiji era to the beginning of the Showa era viz. from the late 1800s to the early 1900s. In Nihon university, there has been a project to make digital libraries and we have implemented a web-based computer system for Kitamura Rokuro's theatrical materials, diary, and so on. He is well known as a contributor to the development of Shinpa, often translated as ``New School Theater" refers to a theatrical genre born in Meiji Japan. But, research of Shinpa is late coming because of the difficulty and tediousness of collecting and filing materials. In order to improve such an inefficient situation, we digitized Kitamura Rokuro's theatrical materials and propose multifaceted and comprehensive approaches. We expect our approaches help general user to attract their interest, the research of Shinpa specialists, and the development of Shinpa.

1．はじめに

日本大学文理学部では，平成15年度より学術フロンティア推進事業の一環として，日本大学総合学術情報センターに所蔵されている，日本語や日本文学に関わる貴重資料のデジタルアーカイブ化をすすめている［4,5,7］．内訳は，中世の日記である『明月記』，同じく中世の私家集である『大斎院前の御集』，中世中古の絵巻物である『落窪物語』，中世の辞書である『倭玉篇』，近代の演劇関連資料を集めた「喜多村緑郎文庫」の５つである．

これらはいずれも各時代とジャンルにおいて重要な意味をもつ資料であり，たとえば藤原定家自筆とされる『明月記』は，重要文化財に匹敵する価値をもっている．また奈良絵本として多く流布している『落窪物語』のうち，極彩色の絵巻物として描かれた本学の『落窪物語絵巻』は，研究者も注目し公開が待たれる資料のひとつである．

本プロジェクトでは，こうした貴重な資料を学外に広く公開することを目的として，平成19年12月を目処に，ホームページの公開を予定している．中でも，新派関連資料を集めた「喜多村緑郎文庫」では，現在認知度がけっして高い

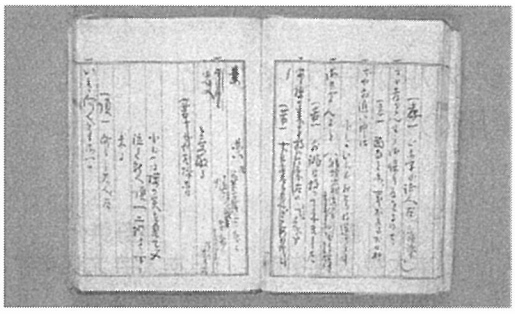

図１　喜多村緑郎文庫の台本　（訂正が書き込まれている）

とはいえない新派劇というジャンルを，広く一般に紹介すると同時に，貴重な台本類の資料を，専門的な調査研究に有効なかたちで提供できるよう，4 つのパートからなるホームページを構成した．本稿では「喜多村緑郎文庫」に絞って，多面的アプローチを具体的に紹介する．

2．「喜多村緑郎文庫」の概要

本章では，喜多村緑郎と彼に関連する演劇資料，そして新派劇について述べる．

2.1　喜多村緑郎文庫の台本

喜多村緑郎（1871～1961）とは，明治から昭和にかけて活躍した新派劇の役者である．新派劇の女方の芸を完成したことが評価され，1955（昭和 30）年には，重要無形文化財保持者（新派女方）の認定を受けている［2］．

新派劇に関していえば，明治期には歌舞伎に代わる新時代の演劇として登場し，当時は歌舞伎をしのぐ人気を博していたが，現在では，時流にのりきれず，興行規模を縮小してわずかに命脈を保っている．

「喜多村緑郎文庫」には，喜多村緑郎が舞台で実際に使用した台本（図 1），書抜，ノート，大道具帳，舞台のスチール写真（図 2），ならびに上演時に劇場で販売されていた絵本筋書（図 3），役者の写真付きはがき，および劇評が掲載された新聞など多彩な資料が集められている．

中でも，喜多村自身の役作りや演出に関する書き込みや，台詞を削除した跡がそのまま残された台本と書抜は，ひとつの作品が完成するまでの過程をたどることのできる得難い資料である．

図２　舞台スチール写真

図３　絵本筋書

こうした台本や書抜類に関しては，同一タイトルのものが数点ずつまとめられて，120 の箱に保管されている．

2.2　喜多村緑郎日記

また「喜多村緑郎文庫」には，舞台関連資料とは別に，喜多村が大正 12 年から昭和 33 年までの間に書き記した日記が収められている［3］．これは役者の一日をつぶさに知ることのできる資料であり，プライベートに関する記述のほかに，興行に関する記録や，役作りについての詳細な記述なども見られる．

そのため「喜多村緑郎文庫」の台本や書抜は，日記の記述を参照することによって，喜多村緑郎の舞台を総合的に捉えることのできる資料となる［6］．日記については，全巻にわたる翻刻作業を現在進行中である．

日記からは，喜多村緑郎の人柄や，幅広い交友関係を知ることができるのはもちろんのこと，当時の町並みや，老舗名店に関する情報なども得ることができる．そのため喜多村緑郎日記の価値は演劇だけにとどまらず，文化的な資料として広く活用されることが期待されるものである．

3．演劇関連資料のデジタルアーカイブ

本章では，演劇資料に関する諸機関でのデジタル化やデータベース化に対する取り組みを紹介すると共に，新派劇に対する諸問題を示す．

3.1　諸機関の現状

演劇関連の資料については，早稲田大学演劇博物館や国立劇場によってデータベース化が進められている．これらはホームページ上での閲覧が可能であり，以下個別に紹介する．

早稲田大学演劇博物館の「デジタル・アーカイブ・コレクション」[1] には，「舞台写真データベース」「現代演劇上演記録データベース」などのデータベースがある．演劇，映画などの

[1] http://133.9.157.146/web50/ index.htm

台本については，早稲田大学学術情報検索システム（WINE）によって所蔵情報を確認した上で，紙媒体のものを閲覧できる．また義太夫と古浄瑠璃については，早稲田大学演劇博物館デジタル・アーカイブ・コレクション[1]で，画像データと翻刻が閲覧可能である．

一方，国立劇場の「文化デジタルライブラリー」[2]には，国立劇場における歌舞伎，新派，文楽，舞踊，邦楽，能・狂言の上演記録がデータベース化されており，こちらも台本を含む伝統芸能関連の図書資料については，別途国立劇場図書システムで検索できるようになっている．

また，松竹株式会社の大谷図書館[3]には，演劇，映画，日本舞踊，テレビなどに関する台本，文献，雑誌，写真，プログラム，ポスターなど，約35万点もの資料が所蔵されている．新派関連の台本・書抜の類も充実しており，喜多村緑郎文庫と補完し合う資料も，数多く存在するものと思われる．しかし，所蔵資料のデータベース化については，現在進行中とのことである．

3.2　その問題点

このように演劇関連資料のデータベース化は進んでいるものの，台本等，画像データの閲覧に関しては，まだごく一部でしか対応できていないのが現状である．

しかしながら，資料の保存と有効活用の面からみても，資料のデジタル化が果たす役割は大きい．たとえばオリジナル資料の劣化［図 4］が懸念され，閲覧が制限される場合があるが，デジタル化は，こうした問題を解決してくれる．さらにそれらをインターネット上で公開できれば，情報を共有できる範囲は飛躍的に広がる．

図 4　オリジナル資料の劣化が懸念される例（ネズミによる損傷か）

[1] http://www.enpaku.waseda.ac.jp/db/index.html

[2] http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/

[3] http://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/

情報の共有が研究の発展に寄与することはいうまでもない．このように，学術資料のデータベース化とデジタル化は，調査研究の基盤作りとして不可欠であり，このことは演劇研究においても例外ではない．

新派劇については，「お涙頂戴」をもっぱらとする低俗な大衆劇という誤ったイメージが流布したため，演劇研究の分野から遠ざけられてきた傾向にある．すなわち興行においても，研究においても新派劇は現在放擲された状態にあるといえる．

だが一方で，それが明治期にはじまったものであることから，新派関連の資料については，比較的残されているものが多い．

そこでむしろ問題なのは，そうした資料を研究対象とみないことによって，散逸，喪失させてしまうことである．このように新派劇においては，資料の収集と保存に対する，早急な対応が必要なのである．

その際，データベース化という選択は，新派研究の遅れを取り戻すために有効であり，それが進められることによって，今後の研究が飛躍的に進行することが期待できる．

4．ホームページについて

こうした中，喜多村緑郎文庫では，台本など演劇資料のデータベース化とデジタル化を進めており，2007 年 12 月にホームページ上での公開を予定している．

4.1　日本大学所蔵台本と年代推論システム

新派劇の台本は，出演者全員に複写したものが配られるため，上記の機関が所蔵している台本に重複するものが多くみられる．

また，幕や場ごとに分冊されている場合もあり，全幕がそろって完本として所蔵されていないことも多い．そのため，各機関での所蔵状況が通覧できれば，欠落部分を相互に補完しあうことが容易になり，調査研究を進めていく上で利便性が高まる．

しかしながらこれらの資料は，通常，資料の個別性を識別するための指標が十分に揃っていないことが多い．とりわけその台本が上演された年月日を示す情報が欠落していることが多く，資料の迅速かつ十分な活用が妨げられている．そこで「喜多村緑郎文庫」では，情報科学の分野における知見を利用し，上演年代の推論システムを構築した［1,8,9］．

［1,8,9］では，演劇資料から欠落してしまった上演年代を，その台本に関連する複合的な情報（紙質，筆記用具，印刷方法など）から推論するシステムを構築している．このシステムを用いることにより，散在した演劇資料を構造的に収集し比較することが可能となる．すなわち，現在それぞれの機関で所蔵している台本の重複

状況については把握されていないが，このシステムを利用して上演年代を特定することができれば，資料の欠如を相互の機関で補い合うことが容易となり，調査・研究における利便性は飛躍的に上がることになる．また，本システムでは上演年代を推定する際に，十二支表現を用いた言語表現に対して，曖昧性の除去が可能となる結果を示している．例えば，申年といった表現に対して，ここでの申年は 1908 年であるといった特定を可能としている．従来，このような語彙的曖昧性の解消は困難とされているが，新派劇という限定した対象領域において，時間情報の特定が可能となることを示せたのは，逆に本研究での成果といえる．

さらにこれらの結果は，上演年表という二次資料を参照することによって，該当資料が上演された場所のデータと結びつけることが可能であり，それによって情報は，本来もっていた空間性を回復できることになる．

4.2　台本検索システム

上記の日本大学所蔵の台本は，タイトルごとに 120 の箱に収められている．ひとつの箱には台本，書抜，絵本筋書，写真等の資料が何冊ずつかまとめられている．それらについては，箱番号・資料番号・形態（台本，書抜などの分類），原作者，脚色者，演出者，上演年月，劇場，配役，説明（台本の場合，それが書かれた紙や筆記用具についての情報や，表紙に手書きされたメモ書きなど，資料に個別な情報を記したもの）からなる，インデックスを作成している．

ホームページでは，まず所蔵台本の一覧を見ることができる．これは，具体的なタイトルが思いつかない場合にも，手軽に利用することができるようにしたものである．これは従来の研究者向けの検索システムの場合，たとえば台本のタイトルが思い浮かばないなど，最初の検索項目に関する手がかりをもたないために，アプローチが遮断されてしまうケースがあったが，そうした不便を解消し，興味をもったユーザが利用しやすいよう，改良したものである．

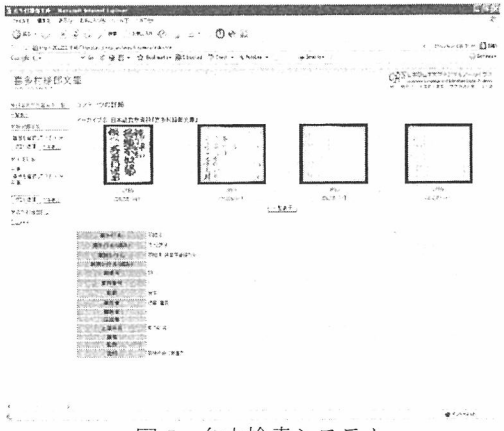

図 5　台本検索システム

次に，一覧からタイトルを選んでクリックすると，ひとつの箱に収められている台本や書抜など複数資料の情報がインデックスとして一覧表示される［図 5］．ここには画像のサムネイルがあり，さらにそれをクリックすると，画像がひとつずつ大きなサイズで表示される．画像の大きさについては，台本なら原寸とほぼ同じ大きさで見ることができ，調査研究に支障のないようになっている．

新派関連の台本の場合，機関によっては喜多村緑郎文庫に所蔵されているのと同じ資料であっても，閲覧に際して事前の申請や特別な手続きを必要する場合がある．しかし，データベース化ならびにホームページ上で公開すれば，こうした煩雑さは解消され，資料の活用が容易になる．

新派の台本は，同じタイトルのものが何種類も存在することが多い．これは上演ごと手が加えられ，刷新されていくからである．

これらの中には『にごりえ』（2005 年 11 月）や『婦系図』（2007 年 8 月）など，最近上演されたものもあり，喜多村緑郎文庫の台本データベースを使えば，直近の公演と過去のものとの相違を比較しながら，作品に対する解釈をさらに深めるということもできるようになる．このように過去の資料は，デジタルアーカイブ化を通して，現在の時間と接続され，再生させることができるのである．

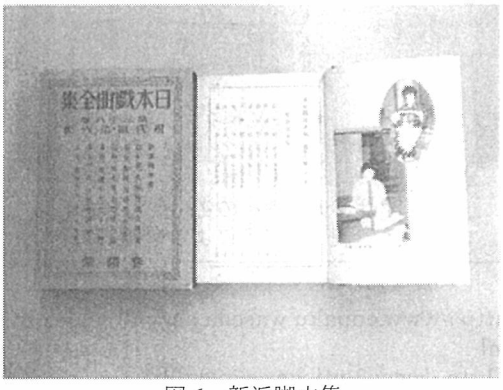

図 6　新派脚本集

4.3　新派脚本集

新派劇の上演テクストに関しては，唯一体系的にまとめられたものである春陽堂版『日本戯曲全集第38巻　新派脚本集』が，現在絶版状態にある［図 6］．そのため新派劇に興味をもって，作品を読んでみたいと思っても，新派劇の代表作であるなしにかかわらず，それが困難な状態にある．

そこで「喜多村緑郎文庫」のホームページでは，『新派脚本集』のテクストデータを公開することにした．これによって，新派劇の名作を手軽に読むことができると同時に，そこを入り口としてさらに日本大学所蔵台本検索システムを活用すれば，より専門的な調査研究ができるようになっている．

つまり，一般の利用者と専門的な研究者との間に連続性をもたせながら，新派劇の作品をいろいろな角度から総合的に楽しんでもらえるようになっているのである．

また新派の劇団は，明治期に韓国でも盛んに公演を行い，韓国の演劇に影響を与えた．しかし韓国でも現在，新派劇の研究はあまり進んでいない．こうした中、新派劇の資料のデータベース化を進めれば，海外の研究者も手軽に資料を利用することができるようになり，研究をともに発展させていくための端緒となることが期待できる．

4.4　上演年表検索システム

現在，新派劇の上演年月日および劇場を示す資料としては，劇団新派編『新派年表』や『松竹百年史　演劇資料』（松竹株式会社発行）などがある．「喜多村緑郎文庫」では，喜多村緑郎が活躍した時代に関する上演年表をホームページを構築した［図 7］．

具体的には，まず検索タイプとして「西暦」「劇場」「リアルタイム検索」の３つがある．前の二者は年表内の西暦と劇場のすべてをプルダウンメニューで表示し，そこから選択できるようになっている．「リアルタイム検索」については，「年」「年号」「月」「劇場」「演目」「出演者」「コメント」からひとつを選んで，テクスト入力によって検索する．

この場合，たとえば「新」と入力すると，「新歌舞伎座」「新橋演舞場」「新守座」「新宿劇場」というように，「新」のつく劇場に関するすべてのデータが，クリックなしで自動的にリストアップされる．次に「新宿」と入力すれば，データはさらに絞り込まれる．これは検

図７　上演年表検索システム

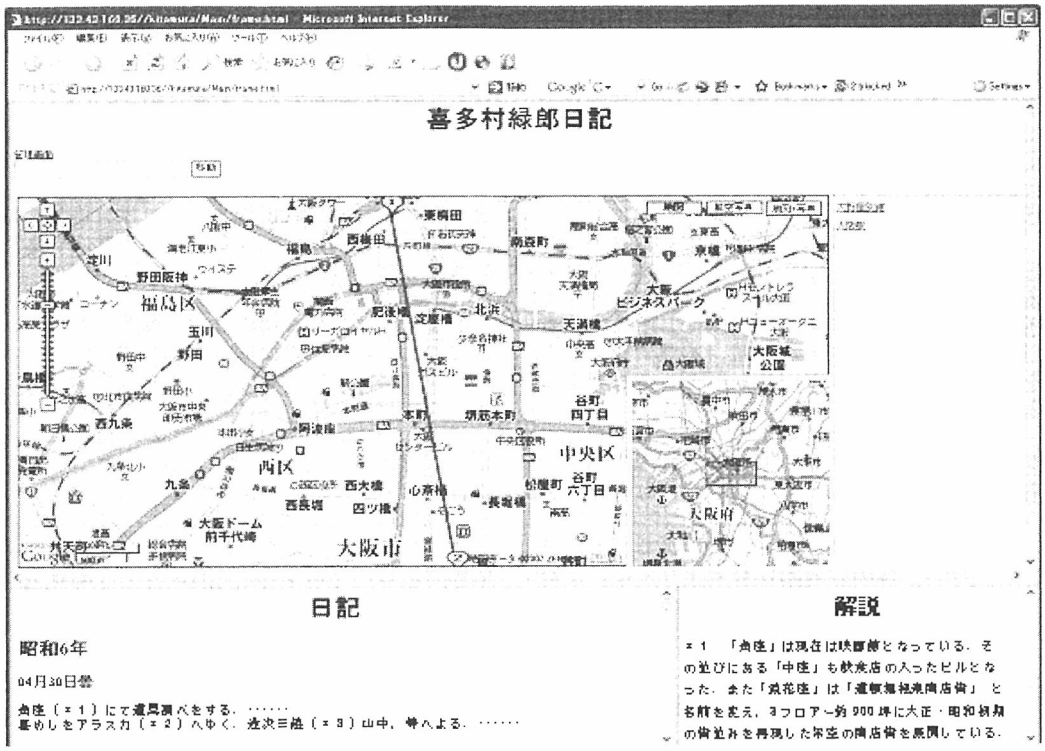

図８　喜多村緑郎日記＆MAP（移動が表示されている）

索ワードを入力するたびに何度もクリックしたり，ページを戻す煩雑さから解消されるばかりでなく，曖昧語の検索に有効である．また検索条件は，「追加条件」として「AND」もしくは「OR」検索を選ぶことができるようにもなっている．

このように上演年表をデータベース化することによって，紙媒体の場合と比較して格段に利便性を増すことができる．さらに，4.1 節で述べた年代推論システムなどをこの年表検索システムに統合することで，より統一的な新派研究を行うことが可能となる．

4.5　喜多村緑郎日記＆MAP

「喜多村緑郎文庫」では，喜多村緑郎日記のうち大阪関連の記述の一部を抜粋し，そこに登場する地名を Google マップ上で検索できるシステムを構築した．ここでは日記上に記された喜多村緑郎の一日の行動を線で結んで見ることができ［図 8］，さらに主要なスポットについては写真や解説を付している［図 9］．これによって失われた古い町並みを現在の地図上に確認することが可能になり，時空間を往還しながら，日記の記述を追うことができるようになる．

本システムでは Google マップによる API を利用することで，新しいデータの入力削除を逐次的に行うことが可能であり，Wikipedia のように複数のユーザが手軽に内容を追加・編集・削除し，その編集過程を保存していくことが可能となる．このようなアプローチはデジタルアーカイブに時空間情報を付加させるだけでなく，ユーザ参加型のアーカイブ構築としての発展を今後期待することができる．

具体的に例を挙げると，昭和 6 年 4 月 26 日の日記には以下のような記述がある．

四月廿六日　晴雨
午前九時燕号にて大阪へ立つ
午后五時廿何分梅田着〈1〉
中井，山上，文芸部員．角座の山本主任．
市田．衣装元．その他．出迎ひにきてゐた．
宗右衛門町大野屋の別館〈2〉へ投ず．

このように，「梅田駅＝大阪駅」→「宗右衛門町大野屋の別館＝大野屋別館」という喜多村の移動が地図上に表示され［図 8］，さらにこの場合はワンクリックで，当時の大阪駅の写真を参照できるようになっている［図 8］．

また現在建物が残っていない記述に関しても，地図上でその位置を確認することができるだけでなく、それについての解説を，日記の本文と平行して読むことができるようになっている．すなわち，過去の町並を現在のそれと対比させて，場所を明確に知ることができるのである．

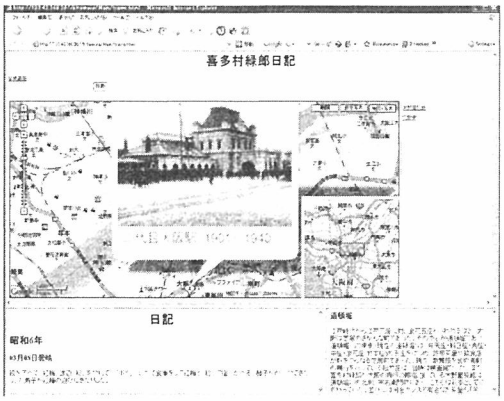

図9　喜多村緑郎日記＆MAP（当時の大阪駅の写真が表示されている）

昭和6年4月30日の例を挙げると，日記本文は次の通りである．

四月三十日　曇

角座〔＊1〕にて道具調べをする．……

昼めしをアラスカ〔＊2〕へゆく．途次三越〔＊3〕山中，等へよる．……

それまでに，千日へいつて万才を二三軒見てあるく．村上君が楽屋へきたので，井上の姉さんのやつてゐる「ボンチ」〔＊4〕へ初めてゆく．東京によく似てゐる．

これに対する解説は以下の通りである．

＊1　「角座」は現在は映画館となっている．その並びにある「中座」も飲食店の入ったビルとなった．また「浪花座」は「道頓堀極楽商店街」[1]と名前を変え，3フロアー約900坪に大正・昭和初期の街並みを再現した架空の商店街を展開している．6階には劇場「ゑびす座」があり，「極上の「笑い」，極上の「エンターテイメント」」を毎日発信している．

＊2　大阪滞在中の喜多村は，「アラスカ」で食事をするのを何よりも楽しみにしていた．「アラスカ」が東京へ出店した後も，大阪と東京の味の差をなげき，料理長である飯田進三郎が東京へ来たときには，喜びのことばを日記にしたためている．

＊3　「山中」は大阪で指折りの道具屋．北浜「三越」も現在は閉店してしまった．

＊4　「ボンチ」は役者の井上正夫のお姉さんがやっていたトンカツ屋で，松竹座の真向かいにあった．球状のトンカツが名物．

このように喜多村緑郎日記をデータベース化することによって，大阪の古い町並や当時の記憶を，時間と空間を越えて重層的に復元することが可能になった．

喜多村緑郎日記＆MAPでは，喜多村緑郎日記の大阪に関する記述に絞ってデータベース化を試みているが，これは江戸時代に大阪が，浪花五座といわれるほど芝居のさかんな町であり，若き日の喜多村もここを活動拠点にしていたからである．また喜多村九寿子夫人についても，「大和屋技芸学校」を併設する，道頓堀の有名なお茶屋「大和屋」で，上方地唄舞で有名な武原はんといっしょに，あしべ踊りの主役を務めていたというエピソードがある．

このように芝居の町大阪は，喜多村緑郎とゆかりの深い土地であり，喜多村の書き残したさまざまなエピソードが，今回のデータベース化によって，大阪の郷土研究の充実した成果の数々と，リンクしていくことを願っている．

5．おわりに

以上のように「喜多村緑郎文庫」アーカイブでは，現在衰退傾向にある新派劇に対する，興味や研究の活性化に貢献できるよう，一般ユーザの興味を活性化すると同時に，調査研究に携わる専門家の要望にも的確に対応できるよう，所蔵資料を有機的に関連づけながら，多面的に利用できるシステムを構築した．特に，4.1節の年代推論システムでは(1-i)上演年代の不明確な台本に対して，その年代を推論する計算機システムを構築し，その結果(1-ii)資料の編纂や欠落部分の相互補完を容易とし，さらには，(1-iii)語彙的曖昧性解消といった効果を得ることができた．4.2節の台本検索システムでは，新派劇の台本画像のインターネット上での閲覧を他に先駆けて着手した．4.3節の新派脚本集では，絶版となった新派劇の名作を，インターネット上で復活させた．4.4節の上演年表検索システムでは，(4-i)リアルタイム検索というインターフェースを作成し，(4-ii)クリックやページの移動といった煩雑さから解消され，(4-iii)曖昧語に対する検索が容易となった．そして，4.5節の喜多村緑郎Googleマップでは，(5-i) GoogleマップによるAPIを利用し，その結果(5-ii)デジタルアーカイブに時空間情報を付加することが可能となり，(5-iii)視覚的にも興味をかきたてるデジタルアーカイブインターフェースの構築が可能となった．さらに，(5-iv)ユーザ参加型のデジタルアーカイブ構築への応用が期待できる．

これらは新派劇およびその研究の発展に大いに寄与できる可能性が見込まれるものであり，今後は，台本の画像データ化を完了し，コンテンツのさらなる充実をはかることが課題となる．また，本稿で示した複数のシステムやWebページを統合することで，様々なインターフェースの利便性をあげていくことも目的とする．

---

[1] http://www.jiraiy.co.jp/doutonbori/index.html

謝辞

松嶋慎太郎氏には、上演年表検索システムの構築に対して，多大なご尽力を頂きました．ここに感謝の意を表します．

参考文献

[1] S. Yoshioka, M. Morii, S. Tani, K. Kensuke and S. Toda : Temporal Reasoning System for the Digital Theater Library,Proceeding of the IMSA-07 (IASTED), 2007.

[2]『週刊人間国宝』,No.36,朝日新聞社, 2007.

[3]『喜多村緑郎日記』,演劇出版社,1962.

[4] 森井マスミ「喜多村緑郎文庫の日記と台本」,日本大学国文学会編『語文』,2004,pp.226-232

[5] 森井マスミ「演劇関連資料のデジタルアーカイブ化」『デジタルアーカイブの構築』8章，日本大学文理学部，トランスアート，pp.155-170, 2005.

[6] 森井マスミ「喜多村緑郎文庫『藤十郎の恋』—台本翻刻と異同について」『年次研究報告書』，日本大学文理学部情報科学研究所,2005,pp.74-86.

[7]森井マスミ,吉岡卓「知的工学的手法に基づく喜多村緑郎文庫アーカイブス」，日本大学学術フロンティア推進事業日本語日本文学デジタルアーカイブプロジェクト主催アーカイブス，その展望と歴史シンポジウム論文集，2007，pp.16-21.

[8] 吉岡卓, 森井マスミ, 谷聖一, 紅野謙介, 戸田誠之助「演劇資料アーカイブに対する年代推論システム」, 情報処理学会, 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集, 2006, pp.109-116.

[9] 吉岡卓, 森井マスミ「デジタルアーカイブに対する知識工学的応用-喜多村緑郎文庫に対するテキストマイニング-」『デジタルアーカイブの高度利用』, 4 章, 日本大学文理学部, トランスアート, pp.33-55, 2007.